

航空自衛隊沖永良部島分屯基地に関する 令和6年度予算案の主要事業について

【南西航空警戒管制団第55警戒隊のレーダーの能力向上】

○ 概要

軍事技術の進展とあいまって、経空脅威は多様化・複雑化しており、その中には極超音速滑空兵器（HGV）等と推定されるものも確認されております。こうしたミサイルの脅威の高まりを受け、HGV等を探知・追尾するための能力を強化するため、固定式警戒管制レーダー装置（FPS-7）の能力向上を実施することとしております。



令和6年度予算案においては、FPS-7の能力向上に係る経費（約5億円）を計上しています。なお、本能力向上事業は、令和9年度に完了する予定です。

【警戒隊の体制移行】

航空自衛隊は全国28か所に防空監視所を配備し、対領空侵犯措置、防空等のほか弾道ミサイル対処等の各種任務に万全を期すため、我が国周辺において24時間態勢により常時継続的な警戒監視を実施しております。

警戒監視の重要性は変わらない一方で、人口減少と少子高齢化の進展により、限られた人材を最大限有効に活用することが求められており、さらに、従来領域に加え、宇宙・サイバー・電磁波領域の態勢整備を加速させる必要があることから、必要な人材の確保が急務となっております。

このような状況を踏まえ、航空警戒管制部隊では、警戒監視体制を維持しつつ、必要な装備品や態勢整備の進捗に応じて体制移行を進めており、警戒管制レーダーの遠隔操作機器材の導入等を踏

まえ、令和6年度では各航空警戒管制団の警戒隊の一部要員を省人化（▲約10名）することとしております。

【主な施設整備】

令和6年度予算案においては、沖永良部島分屯基地における空調設備の整備に係る経費として約1億円を計上しています。

この事業を含め、沖永良部島分屯基地における施設整備に係る経費は、全体で約8億円を計上しています。

【分屯基地の定員】

令和6年度の沖永良部島分屯基地の定員については、以下のとおりとなる予定です。

令和5年度末	令和6年度末	増▲減
約150名	約130名	▲約10名

※ 四捨五入により合計が一致しない場合があります。